

特別支援学校と小中学校等の音楽科教育課程の関係性 II

—鑑賞指導に焦点を当てて—

Relationship of the Music Curriculum between Special Needs Schools, Elementary Schools, Junior High Schools, High Schools, Kindergartens, and Nursery Schools II

—Focusing on Music Appreciation—

藤原志帆¹・福島さやか²
Shiho Fujihara・Sayaka Fukushima

はじめに

2014年2月、我が国においても「障害者の権利に関する条約」が発効し、インクルーシブ教育システム構築に向けた取り組みが本格化している。2012年7月に中央教育審議会初等中等教育分科会が示した「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」では、「障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきであること、そしてそこでは、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか、最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である」と述べられており¹⁾、現行の学校システムにおいては、「交流及び共同学習」の実施によって、障害のある子どもと障害のない子どもの学習に関する実践が積み重ねられている状況である。

この「交流及び共同学習」は、特別支援学校と小・中学校、小・中学校の特別支援学級と通常の学級等において行われ、豊かな人間性を育むことが目的の「交流」の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする「共同学習」の側面を併せ持つ²⁾とされているが、教

科に関する双方の学びを成立させるために妥当性の高い指導目標・内容が設定され、有効な手だてが講じられている実践が非常に少ないことが指摘されている³⁾。

このような状況を受けて筆者らは、「交流及び共同学習」が最も多く実施されている音楽科⁴⁾において、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学び、一人一人が各自の能力に即した学習内容にアクセスし、学習成果をあげるための具体的な方策を講じることが急務であると考えた。

障害のある子どもの教科指導は、特別支援学校の学習指導要領（小・中学校の特別支援学級も教育課程編成時に参考にする。）において、知的障害のある子どもを対象とする場合については独自の目標・内容が設定されている⁵⁾。そのため、「交流及び共同学習」で知的障害のある子どもが含まれる場合、教科の目標・内容も異なる子どもたちが学習を共にすることになる。ここに、障害のある子どもと障害のない子どもが、教科等のねらいの達成を目的として学習を共にする場合の難しさがあると考えられる。特別支援教育総合研究所も、インクルーシブ教育システム構築に取り組む際に着手すべき課題の一つとして、「特別支援学校と小・中学校の教育課程の連続性の確保」をあげている⁶⁾。

しかし、特別支援学校（知的障害教育）音楽科の教育課程における発達段階の設定や特別支援学校（知的

1 熊本大学教育学部

2 福岡女学院大学人間関係学部

障害教育)と小中学校等の音楽科教育課程の関係性について検討した先行研究はみられなかった。

そこで筆者らは、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援学校(知的障害教育)と小・中学校等(本稿では、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校を総称して「小・中学校等」とする。)との音楽科教育課程の関係性を明らかにした上で、両者に共通する音楽科指導内容に関する指標を開発し、障害のある子どもと障害のない子どもの音楽科学習の共有化について実践的検証を行う必要があると考えた。

この研究の第一段階として、前稿(藤原・福島, 2014)では、特別支援学校(知的障害教育)音楽科「器楽」領域における指導内容の分析を行い、発達段階に焦点を当てて、特別支援学校(知的障害教育)と小中学校等の音楽科教育課程の関係性を明らかにした⁷⁾。

本稿では、鑑賞指導に焦点を当てて、特別支援学校(知的障害教育)と小中学校等の音楽科教育課程の関係性を明らかにする。

1. 特別支援学校(知的障害教育)音楽科の教育課程

前稿(藤原・福島, 2014)で詳述したように、特別支援学校(知的障害教育)音楽科の内容は、小学部3段階、中学部1段階、高等部2段階の発達段階別に示され、小学部1段階は「音楽遊び」、小学部2段階以上は「鑑賞」、「身体表現」、「器楽」、「歌唱」領域で構成されている。

本稿では鑑賞指導に焦点を当てた分析を行うが、特別支援学校(知的障害教育)については、「鑑賞」に加えて「身体表現」領域の内容も取り扱うこととした。学習指導要領に示された、特別支援学校(知的障害教育)音楽科の「鑑賞」および「身体表現」領域の指導内容を表1に示している。

「身体表現」は、「音楽的にも身体の諸機能を活発にする上からも有意義な活動」⁸⁾として特別支援学校(知的障害教育)音楽科に独自に設定されている領域であり、そのねらいには「身体表現をすることで、曲全体の気分を動きや活動によって感じ取る。」、「動きの変化によって、楽曲の構成を自然に把握できる能力

を育てる」⁹⁾など鑑賞に関わる内容が含まれている。また、特別支援学校(知的障害教育)学習指導要領に示された「身体表現」領域の内容(表1参照)にも、「音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現したりする。」(中学部)など鑑賞に関わる記述がみられる。

表1: 特別支援学校(知的障害教育)音楽科「鑑賞」領域と「身体表現」領域の内容

学部	鑑賞	身体表現
小学部 1段階	音楽が流れている中で体を動かして楽しむ。「音楽遊び」(1)	
小学部 2段階	好きな音や音楽を聴いて楽しむ。	友達や教師とともに簡単なリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。
小学部 3段階	身近な人の歌や演奏などを聴き、いろいろな音楽に関心をもつ。	音楽に合わせて簡単な身体表現をする。
中学部	いろいろな音楽を楽器の音色など関心をもって聴く。	音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現をしたりする。
高等部 1段階	いろいろな音楽をその美しさなどを感じ取りながら鑑賞する。	音楽を聴いて曲の特徴などを感じ取り、創造的に身体の動きで表現したりする。
高等部 2段階	いろいろな音楽をその美しさなどを味わいながら鑑賞する。	音楽を聴いて感じたイメージを創造的に身体表現する。

2. 分析の方法

本稿では、発達に関する指標(音楽的発達に焦点を当てたもの)、就学前の保育や教育に関する指標、初等中等教育段階の教育に関する指標における記述をもとに、特別支援学校(知的障害教育)音楽科の「鑑賞」および「身体表現」領域の指導内容を分析する。

1) 分析の対象

特別支援学校(知的障害教育)音楽科の教育課程は、対象とする子どもの実態が多様であることから概括的に示されており、学習指導要領から内容の詳細を読み取ることは難しい。そのため、本稿では「知的障害特

別支援学校における各教科の具体的な内容の例 4. 音楽¹⁰⁾に示された「鑑賞」および「身体表現」に関する59項目を分析の対象とした。

この「知的障害特別支援学校における各教科の具体的な内容の例 4. 音楽」では、特別支援学校（知的障害教育）音楽科の指導内容が、6段階に分けて133項目示されている。「段階1」は学習指導要領上の小学部1段階に、「段階2」は小学部2段階、「段階3」は小学部3段階、「段階4」は中学部、「段階5」は高等部1段階、「段階6」は高等部2段階に対応する。

2) 分析の指標1：「発達の4層からみた音楽療法の配慮点（宇佐川，2007）」

発達に関する指標（音楽的発達に焦点を当てたもの）として、「発達の4層からみた音楽療法の配慮点（宇佐川，2007）」を用いた。

宇佐川は、約30年間にわたる300名を越す障害児の乳幼児期の療育事例の詳細な検討によって集積された資料をもとに、感覚と運動の高次化による発達水準やその全体的理解の枠組みを精緻化し、「感覚と運動の高次化理論」（「I層：初期感覚の世界」「II層：知覚の世界」「III層：象徴化の世界」「IV層：概念化の世界」）を構築している¹¹⁾。

「発達の4層からみた音楽療法の配慮点（宇佐川，2007）」は、この「感覚と運動の高次化理論」に基づき、障害児の音楽療法を整理したものである¹²⁾。

3) 分析の指標2：「子どもの音楽の発達に関わる評価に関するツール」の「チェックリスト（與座ら，2004）」

発達に関する指標（音楽的発達に焦点を当てたもの）として、「子どもの音楽の発達に関わる評価に関するツール」の「チェックリスト（與座ら，2004）」を用いた。

與座らは、各種発達理論、発達検査（デンバー式発達スクリーニング検査ほか）、教育実践プログラム（MEPAほか）、「カリキュラムガイド」（J.Purvisら）、乳幼児の発達に関わる文献などを検討し、「歌唱」「器楽」「身体表現」「鑑賞」の4領域（各領域は大項目・中項目・小項目に分類）からなる「子どもの音楽の発達に関わる評価に関するツール」の「チェックリスト」（発達年齢0～6歳まで）を作成している¹³⁾。また、この「チェックリスト」を用いて、6年間にわたり352名の健常乳幼児を対象に評価を実施し、信頼性お

よび妥当性を検証している¹⁴⁾。

本稿では、この「チェックリスト」のうち「鑑賞」および「身体表現」の中項目①（発達年齢0歳から2ヶ月）から⑩（6歳から6歳11ヶ月）を分析の指標として用いた。

4) 分析の指標3：幼稚園教育要領・保育所保育指針
就学前の保育や教育に関する指標として、「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」が考えられる。

幼稚園教育要領に関しては、1956年2月や1964年3月の幼稚園教育要領における「音楽リズム」の記述では比較的詳細な音楽に関する指導内容が記されているが、今回は、特別支援学校（知的障害教育）音楽科における指導内容例が2010年のものであるため、これに近い年代のものを対象とすることを検討した。

本稿では、発達年齢区分ごとの記述が詳細である「〈平成11年改訂〉保育所保育指針」¹⁵⁾を分析の指標として用いた¹⁶⁾。

5) 分析の指標4：小学校学習指導要領

初等教育段階の教育に関連する指標として、「小学校学習指導要領」¹⁷⁾を用いる。本稿では、音楽科に関する内容を検討するため、「小学校学習指導要領」第2章 第6節 音楽に記された内容を中心に検討を行っている。

6) 分析の指標5：中学校学習指導要領

前期中等教育段階の教育に関連する指標として、「中学校学習指導要領」¹⁸⁾を用いた。本稿では、音楽科に関する内容を検討するため、「中学校学習指導要領」第2章 第5節 音楽に記された内容を中心に検討を行っている。

7) 分析の指標6：高等学校学習指導要領

後期中等教育段階の教育に関連する指標として、「高等学校学習指導要領」¹⁹⁾を用いた。本稿では、音楽科に関する内容を検討するため、「高等学校学習指導要領」第2章 第7節 芸術に記された内容を中心に検討を行っている。

3. 分析の結果と考察

1) 「発達の4層からみた音楽療法の配慮点（宇佐川，2007）」との対応

「特別支援学校（知的障害教育）音楽科の指導内容

例」(以下「特別支援学校指導内容例」とする)と「発達の4層からみた音楽療法の配慮点(宇佐川, 2007)」(以下「音楽療法の配慮点」とする。)の対応に関する分析結果を、表2に示した。上段に「鑑賞」、下段に「身体表現」領域の内容を示している。「1.」「2.」などの右下に点を付した数字は、「特別支援学校指導内容例」の項目番号を示している。英数字は、その項目に対応する「音楽療法の配慮点」の項目が含まれる層を示している。

分析結果の詳細は表4から8に示した。表の下線を付した部分が、両者の対応を判断した記述である。網掛けが「鑑賞」の項目である。

表2: 「特別支援学校指導内容例」と「音楽療法の配慮点」との対応

	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
鑑賞	1. I	1. II	4. III	4. IV	3. III
	2. I	2. II			IV
	5. I	4. II			5. III
		5. II			
身体表現	7. I	7. II	6. III	7. III	7. IV
	8. II	9. II	10. IV	8. IV	8. IV
	9. II	10. II			9. IV
	11. II	11. III			

「特別支援学校指導内容例」の「段階1」(小学部1段階)には、「音楽療法の配慮点」のI層およびII層に対応する内容が含まれていた。「特別支援学校指導内容例」の「段階2」(小学部2段階)には、「音楽療法の配慮点」のII層およびIII層に対応する内容が含まれていた。「特別支援学校指導内容例」の「段階3」、「段階4」、「段階5」(小学部3段階、中学部、高等部1段階)には、「音楽療法の配慮点」のIII層およびIV層に対応する内容が含まれていた。

以上のように、乳幼児期の発達段階に即して、螺旋を描くように、身体表現を交えた鑑賞活動が示されている。

2) 「子どもの音楽の発達に関わる評価に関するツール」の「チェックリスト(與座ら, 2004)」との対応

「特別支援学校指導内容例」と「子どもの音楽の発達に関わる評価に関するツール」のチェックリスト(與座ら, 2004)」(以下「チェックリスト」とする)

の対応に関する分析結果を表3に示した。上段に「鑑賞」、下段に「身体表現」領域の内容を示している。「1.」「2.」などの右下に点を付した数字は、「特別支援学校指導内容例」の項目番号を示している。丸数字は、その項目に対応する「チェックリスト」の項目番号を示している。網掛けが「鑑賞」の項目である。

分析結果の詳細は表9から13に示した。下線の表記、網掛けは表4から8と同様である。〔 〕内の数字は発達年齢を示している。

表3: 「特別支援学校指導内容例」と「チェックリスト」の対応

	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
鑑賞	1. ①	1. ④	2. ⑦	2. ⑨	3. ⑩
	①	3. ⑦	4. ⑨		
	4. ②	4. ⑥			
身体表現	6. ③	5. ⑦	6. ⑨	7. ⑪	5. ⑩
	7. ③	7. ⑥	8. ⑩	8. ⑪	7. ⑪
	9. ⑧	9. ⑤	9. ⑩	10. ⑩	8. ⑪
	10. ⑤				9. ⑪

「特別支援学校指導内容例」の「段階1」(小学部1段階)には、「チェックリスト」の①(0歳)から⑧(3歳11ヶ月)に対応する内容が含まれていた。「特別支援学校指導内容例」の「段階2」(小学部2段階)には、「チェックリスト」の④(9ヶ月)から⑦(2歳11ヶ月)に対応する内容が含まれていた。「特別支援学校指導内容例」の「段階3」(小学部3段階)には、「チェックリスト」の⑦(2歳から)から⑩(5歳11ヶ月)に対応する内容が含まれていた。

「特別支援学校指導内容例」の「段階4」(中学部)には、「チェックリスト」の⑨(4歳)から⑩(5歳11ヶ月)に対応する内容が含まれていた。「特別支援学校指導内容例」の「段階5」(高等部1段階)には、「チェックリスト」の⑩(5歳)から⑪(6歳11ヶ月)に対応する内容が含まれていた。

以上のように、乳幼児期の発達段階に即して、螺旋を描くように、身体表現を交えた鑑賞活動が示されている。

表 4 : 「特別支援学校指導内容例 (段階1)」と「音楽療法の配慮点」の対応

特別支援学校指導内容例	音楽療法の配慮点
<p>1. 体の動きで反応し、音に気付いたり、関心を示したりする。</p> <p>2. <u>だっこ、マッサージ、ゆさぶりなどで音楽のリズムを伝えてもらい反応する。</u></p> <p>5. <u>曲の始まり、終わりを感じて反応する。</u></p> <p>7. <u>音楽に反応して、体の動きを止めたり、動かしたりする。</u></p> <p>8. <u>教師の手をかりて、歌に合わせて、手足や体の部位を打ちならしたり、動かしたりする。</u></p> <p>9. <u>音楽に合わせて手をたたいたり、歩いたり、走ったり、止まったりする。</u></p> <p>11. <u>歌遊びの中で遊びを交代したり、順番を待ったりする。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音の受容で静止〔I : 音楽の特徴〕 ・音・音楽の受容性を高める、音・音楽の始点と終点の理解、行動系の始点と終点の理解〔I : 発達的な目標〕 ・音楽と運動を合わせることの芽生え〔II : 音楽の特徴〕 ・合わせて楽しむ姿勢の形成〔II : 発達的な目標〕 ・音・音楽を通したやりとり (三項関係の成立)、<u>順番を待つ</u>〔II : 発達的な目標〕

表 5 : 「特別支援学校指導内容例 (段階2)」と「音楽療法の配慮点」の対応

特別支援学校指導内容例	音楽療法の配慮点
<p>1. テープレコーダーなどで、知っている歌や好きな曲を楽しんで聴く。</p> <p>2. いろいろな楽器の音を聴いて、好きな音や音色を見つける。</p> <p>4. <u>曲の始まりと終わりを予測しながら聴く。</u></p> <p>5. <u>好きな歌や曲を聴きながら、体を動かす。</u></p> <p>7. <u>音楽に合わせて、模倣しながら身体の各部位をたたいたりして動かす。</u></p> <p>9. <u>歌や曲に合わせて、簡単なハンドプレイや動作模倣をする。</u></p> <p>10. <u>音楽の大きな流れを感じ取り、自由に身体表現をする。</u></p> <p>11. 「かごめかごめ」「花いちもんめ」「ずいずいずこころばし」のようなリズムカルで簡単なわらべうたや集団遊びをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音・音楽の好みをはっきりする〔II : 音楽の特徴〕 ・整理されたやや構造の強い場面〔II : 場面への配慮〕 ・音・音楽の好みをはっきりする〔II : 音楽の特徴〕 ・音楽と運動を合わせることの芽生え、音楽による繰り返された模倣の芽生え〔II : 音楽の特徴〕 ・合わせて楽しむ姿勢の形成、<u>パターン的な模倣を育てる</u>〔II : 発達的な目標〕 ・手あそび、うたう活動〔III : 活動・楽器類〕 ・<u>集団でも楽しめることが多くなる</u>〔III : 場面への配慮〕

表 6 : 「特別支援学校指導内容例 (段階3)」と「音楽療法の配慮点」の対応

特別支援学校指導内容例	音楽療法の配慮点
<p>4. <u>身近な楽器の音色に関心をもって聴いたり、音当て遊びをしたりする。</u></p> <p>6. <u>歌や曲に合わせて花、ちょう、魚、うさぎ、象、ジェット機、消防車などの模倣表現をする。</u></p> <p>10. <u>ペープサート、パネルシアターや簡単な音楽劇などをして楽しむ。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ききわける力がしっかりする〔III : 音楽の特徴〕 ・音楽によるイメージの共有〔III : 音楽の特徴〕 ・イメージした振り模倣を運動的に表現する〔III : 姿勢・運動〕 ・音楽による役割取得活動 (簡単な合奏や劇)〔IV : 発達的な目標〕

表 7 : 「特別支援学校指導内容例 (段階4)」と「音楽療法の配慮点」の対応

特別支援学校指導内容例	音楽療法の配慮点
<p>4. CD、MD、テープレコーダー、DVD 等で歌を聴いて覚えたり、好きな旋律を覚えたりする。</p> <p>7. <u>音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現したりする。</u></p> <p>8. <u>曲想にふさわしい自由な身体表現をする。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の意識化と再生、歌詞の理解と再生〔IV : 音楽の特徴〕 ・音楽の象徴的表現が理解しやすくなる、<u>リズムへの意識が明確化</u>〔III : 音楽の特徴〕 ・音楽の象徴性を微細かつ調整的な運動で表現する〔IV : 姿勢・運動〕 ・<u>自由度を高める</u>〔IV : 場面への配慮〕

表8：「特別支援学校指導内容例（段階5）」と「音楽療法の配慮点」の対応

特別支援学校指導内容例	音楽療法の配慮点
<p>3. いろいろな音楽を聴いて、<u>リズム、旋律、速さ等の特徴に気を付けて、味わいを楽しむ。</u></p> <p>5. 音楽を特徴づけている音階、<u>リズム、ハーモニーに気を付けて聴く。</u></p> <p>7. 曲の拍子やリズムの違いを聴き分けたり、聴き比べたりして<u>身体表現をする。</u></p> <p>8. 歌いながら<u>リズムカルに身体表現をする。</u></p> <p>9. 音楽を聴いて、その<u>曲想を感じ取り、独創的に身体表現をする。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の象徴的表現が理解しやすくなる、<u>リズムへの意識が明確化、旋律の意識化と再生</u>〔IV：音楽の特徴〕 ・<u>テンポや強弱を意識して合わせようとする活動</u>〔III：活動・楽器類〕 ・音楽の象徴的表現が理解しやすくなる、<u>リズムへの意識が明確化</u>〔IV：音楽の特徴〕 ・音楽の<u>象徴性を微細かつ調整的な運動で表現する</u>〔IV：姿勢・運動〕 ・<u>リズムへの意識が明確化</u>〔IV：音楽の特徴〕 ・音楽の<u>象徴性を微細かつ調整的な運動で表現する</u>〔IV：姿勢・運動〕

表9：「特別支援学校指導内容例（段階1）」と「チェックリスト」の対応

特別支援学校指導内容例	チェックリスト
<p>1. <u>体の動きで反応し、音に気付いたり、関心を示したりする。</u></p> <p>4. <u>教師などの歌や演奏に興味を示す。</u></p> <p>6. <u>音楽が流れている中で、休息したり、手足を動かしたり、遊んだりする。</u></p> <p>7. <u>音楽に反応して、体の動きを止めたり、動かしたりする。</u></p> <p>9. <u>音楽に合わせて、手をたたいたり、歩いたり、走ったり、止まったりする。</u></p> <p>10. <u>教師と一緒に簡単な手遊び歌、指遊び歌、ものまね遊びなどを<u>する。</u></u></p>	<p>①近くで音が出る玩具を鳴らすと、<u>顔や目を向けることができる。</u>〔0:0～0:2〕</p> <p>①音や音楽を聞いて、<u>反射的に身体やその一部を動かすことができる。</u>〔0:0～0:2〕</p> <p>②<u>教師や友だちの声に振り向くことができる。</u>〔0:3～0:5〕</p> <p>③音楽を聴くと、<u>それに反応して頭を振る、身体を揺する、手を振る、足をトントン動かすなどの自発的な動きをすることができる。</u>〔0:6～0:8〕</p> <p>⑧音楽に合わせて、<u>歩いたり、走ったり、止まったりすることができる。</u>〔3:0～3:11〕</p> <p>⑤音楽を聴きながら、<u>教師と一緒に握手などの動作をすることができる。</u>〔1:0～1:5〕</p>

表10：「特別支援学校指導内容例（段階2）」と「チェックリスト」の対応

特別支援学校指導内容例	チェックリスト
<p>1. <u>テープレコーダーなどで、知っている歌や好きな曲を楽しんで聴く。</u></p> <p>3. <u>教師の歌や楽器の演奏を聴く。</u></p> <p>4. <u>曲の始まりと終わりを予測しながら聴く。</u></p> <p>5. <u>好きな歌や曲を聴きながら、体を動かす。</u></p> <p>7. <u>音楽に合わせて模倣しながら<u>身体の各部位をたたいたりして動かす。</u></u></p> <p>9. <u>歌や曲に合わせて、簡単なハンドプレイや動作模倣をする。</u></p>	<p>④CD やテープレコーダー、オルゴールなどの音や音楽に興味・関心を持って聴くことができる。〔0:9～0:11〕</p> <p>⑦好きな音楽や、<u>教師や友だちの歌などを集中して聴くことができる。</u>〔2:0～2:11〕</p> <p>⑥音楽の開始、終止、中絶に気付くことができる。〔1:6～1:11〕</p> <p>⑦好きな音楽や、<u>教師や友だちの歌などを集中して聴くことができる。</u>〔2:0～2:11〕</p> <p>⑥2拍子などの調子のよい音楽を聴くと、<u>その拍子のリズムをとらえて、頭や手を振ったり、身体を揺すったり、手をたたいたり、足をトントン動かしたりすることができる。</u>〔1:6～1:11〕</p> <p>⑤音楽を聴きながら、<u>教師と一緒に握手などの動作をすることができる。</u>〔1:0～1:5〕</p>

表11：「特別支援学校指導内容例（段階3）」と「チェックリスト」の対応

特別支援学校指導内容例	チェックリスト
2. <u>友達や教師の歌や演奏を静かに聴いて楽しむ。</u>	⑦好きな音楽や、教師や友だちの歌などを集中して聴くことができる。[2:0～2:11]
4. <u>身近な楽器の音色に関心をもって聴いたり、音当て遊びをしたりする。</u>	⑨いろいろな楽器の音色の違いがわかり、音当てをすることができる。[4:0～4:11]
6. <u>歌や曲に合わせて花、ちょう、魚、うさぎ、象、ジェット機、消防車などの模倣表現をする。</u>	⑨音楽に合わせて、動物、乗り物などの身体表現をすることができる。[4:0～4:11]
8. <u>楽器や道具（手具）などを使って、音楽に合わせて身体表現をする。</u>	⑩音楽に合わせて、楽器や道具などを使って身体表現をしたり、簡単なフォークダンスを踊ったりすることができる。[5:0～5:11]
9. <u>簡単なフォークダンスや踊りをする。</u>	

表12：「特別支援学校指導内容例（段階4）」と「チェックリスト」の対応

特別支援学校指導内容例	チェックリスト
2. <u>いろいろな楽器の音色に関心をもって聴く。</u>	⑨いろいろな楽器の音色の違いがわかり、音当てをすることができる。[4:0～4:11]
7. <u>音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現したりする。</u>	⑩音楽のリズム、速さ、強弱などに合わせて、自由に身体表現をすることができる。[6:0～6:11]
8. <u>曲想にふさわしい自由な身体表現をする。</u>	
10. <u>民族音楽の特徴を味わいながらフォークダンス、民謡などを踊る。</u>	⑩音楽に合わせて、楽器や道具などを使って身体表現をしたり、簡単なフォークダンスを踊ったりすることができる。[5:0～5:11]

表13：「特別支援学校指導内容例（段階5）」と「チェックリスト」の対応

特別支援学校指導内容例	チェックリスト
3. <u>いろいろな音楽を聴いて、リズム、旋律、速さ等の特徴に気を付けて、味わい楽しむ。</u>	⑩音楽のリズム、速さ、強弱の変化に気付くことができる。[5:0～5:11]
5. <u>音曲を特徴付けている音階、リズム、ハーモニーに気を付けて聴く。</u>	
7. <u>曲の拍子やリズムの違いを聴き分けたり、聴き比べたりして身体表現をする。</u>	⑪拍を感じながら音楽を聴くことができる。[6:0～6:11]
8. <u>歌いながらリズムカルに身体表現をする。</u>	⑩音楽のリズム、速さ、強弱などに合わせて、自由に身体表現をすることができる。[6:0～6:11]
9. <u>音楽を聴いて、その曲想を感じ取り、独創的に身体表現をする。</u>	

3) 「〈平成11年改訂〉保育所保育指針」との対応

「特別支援学校指導内容例」と「〈平成11年改訂〉保育所保育指針」（以下「保育所保育指針」とする。）の対応に関する分析結果を、表14に示した。上段に「鑑賞」、下段に「身体表現」領域の内容を示している。

「2.」「3.」などの右下に点を付した数字は、「特別支援学校指導内容例」の項目番号を示している。その後、その項目に対応する「保育所保育指針」の項目が含まれる箇所を示している。

分析結果の詳細は表15～18に示した。表の下線を付した部分が、両者の対応を判断した記述である。網掛が「鑑賞」の項目である。

「特別支援学校指導内容例」の「段階1」には、

「保育所保育指針」の6か月未満児から2歳児の保育の内容に対応する部分が含まれていた。また「特別支援学校指導内容例」の「段階2」には、「保育所保育指針」の2歳児から6歳児の保育の内容に対応する部分が含まれていた。さらに「特別支援学校指導内容例」の「段階3」には、「保育所保育指針」の3歳児から6歳児の保育の内容に対応する部分が含まれていた。そして「特別支援学校指導内容例」の「段階4」には、「保育所保育指針」の6歳児の保育の内容に対応する部分が含まれていた。「段階1」では、歌に合わせて手足や体を動かす、簡単な手遊びをする内容が対応しており、「段階2」では、リズムに合わせて体を動かす内容が対応している。また「段階4」では感じたこ

表14：「特別支援学校指導内容例」と「保育所保育指針」との対応

	段階1	段階2	段階3	段階4
鑑賞	4. 6 か月未満児の保育の内容 4 内容 (13)	2. 3、4、5、6 歳児の保育の内容 4 内容 (1)	2. 4、5、6 歳児の保育の内容 4 内容 「表現」 (2) 5. 3、5、6 歳児の保育の内容 4 内容 「表現」 (2)	
身体表現	8. 6 か月から1歳3 か月未満児の保育の内容 4 内容 (15) 10. 1歳3 か月から2 歳未満児の保育の内容 4 内容 (18) 10. 2歳児の保育の内容 4 内容 (17)	7. 2 歳児の保育の内容 4 内容 (17) 9. 2 歳児の保育の内容 4 内容 (17)		7. 6歳児の保育の内容 4 内容 「表現」 (6)

表15：「特別支援学校指導内容例（段階1）」と「保育所保育指針」の対応

特別支援学校指導内容例	保育所保育指針
4. 教師などの歌や演奏に興味を示す。	(13) 子どもに優しく語りかけをしたり、歌いかけたり、泣き声や喃語に答えながら、保育士との関わりを楽しめるようにする。(6 か月未満児の保育の内容 4 内容)
8. 教師の手をかりて、歌に合わせて、手足や体の部位を打ちなしたり、動かしたりする。	(15) 保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。(6 か月から1歳3 か月未満児の保育の内容 4 内容)
10. 教師と一緒に簡単な手遊び歌、指遊び歌、ものまね遊びなどをする。	(18) 保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、また、体を動かしたりして遊ぶ。(1歳3 か月から2歳未満児の保育の内容 4 内容)
10. 教師と一緒に簡単な手遊び歌、指遊び歌、ものまね遊びなどをする。	(17) 保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。(2歳児の保育の内容 4 内容)

とを体などで表現したりすることが対応している。以上のように、身体表現を交えた鑑賞活動が段階的に提示されている。

表16：「特別支援学校指導内容例（段階2）」と「保育所保育指針」の対応

特別支援学校指導内容例	保育所保育指針
2. <u>いろいろな楽器の音を聴いて、好きな音や音色を見つける。</u>	(1) 身の回りの様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気付く。(3歳児の保育の内容 4 内容 「表現」) ²⁰⁾
7. <u>音楽に合わせて、模倣しながら身体の各部位をたたいたりして動かす。</u>	(17) 保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。(2歳児の保育の内容 4 内容)
9. <u>歌や曲に合わせて、簡単なハンドプレイや動作模倣をする。</u>	(17) 保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。(2歳児の保育の内容 4 内容)

表17：「特別支援学校指導内容例（段階3）」と「保育所保育指針」の対応

特別支援学校指導内容例	保育所保育指針
2. <u>友達や教師の歌や演奏を静かに聴いて楽しむ。</u>	(2) 友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。(4歳児の保育の内容 4 内容 「表現」) ²¹⁾
5. <u>学校生活の中で流れる音楽に関心をもち楽しむ。</u>	(2) 音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、体を動かしたり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりして楽しむ。(3歳児の保育の内容 4 内容 「表現」) ²¹⁾

表18：「特別支援学校指導内容例（段階4）」と「保育所保育指針」の対応

特別支援学校指導内容例	保育所保育指針
7. <u>音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現したりする。</u>	(6) 感じたこと、想像したことを、言葉や体、音楽、造形などで自由な方法で、様々な表現を楽しむ。(6歳児の保育の内容 4 内容 「表現」)

4) 「小学校学習指導要領」との対応

「特別支援学校指導内容例」と「小学校学習指導要領」の対応に関する分析結果を、表19に示した。上段に「鑑賞」、下段に「身体表現」領域の内容を示している。右下に点を付した数字は、「特別支援学校指導内容例」の項目番号を示している。その後、その項目に対応する「保育所保育指針」の項目が含まれる箇所を示している。

分析結果の詳細は表20～25に示している。下線の表記、網掛は表15から18と同様である。

表19：「特別支援学校指導内容例」と「小学校学習指導要領」との対応

	段階1	段階2	段階3
鑑賞			3. 低、中、高学年2 内容B鑑賞 (2) ア 4. 低学年 2 内容B鑑賞 (2) ウ 低、中、高学年 [共通事項] (1) ア (ア)
身体表現	10.11 低学年2 内容B鑑賞 (2) ア	11. 低学年2 内容B鑑賞 (2) ア	9.10. 低、中、高学年2 内容B鑑賞 (2) ア
	6.7.8.9.10.11. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)	5.7.8.9.10.11. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)	6.7.8.9.10. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)

	段階4	段階5	段階6
鑑賞	2. 低学年 2 内容B鑑賞 (2) ウ 低、中、高学年 2 内容B鑑賞 (1) イ、(2) イ 低、中、高学年 [共通事項] (1) ア(ア)	2. 低学年 2 内容B鑑賞(2)ウ 3. 低、中、高学年 2 内容B鑑賞 (1) イ、(2) イ 低、中、高学年 [共通事項] (1) ア (ア) 5. 低、中、高学年 2 内容B鑑賞 (1) イ、(2) イ 中、高学年 [共通事項] (1) ア(ア)	
身体表現	8. 中、高学年2 内容 B 鑑賞 (1) ア	7. 低、中、高学年 2 内容B鑑賞 (1) イ、(2) イ 低、中、高学年 [共通事項] (1) ア(ア)	
	7.8.9.10. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)	7.8.9. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)	7.8. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)

表20：「特別支援学校指導内容例（段階1）」と「小学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	小学校学習指導要領
10. 教師と一緒に簡単な手遊び歌、指遊び歌、ものまね遊びなどをする。	ア我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲（低学年2 内容B鑑賞 (2)）
11. 歌遊びの中で遊びを交代したり、順番を待ったりする。	(1)各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
6. 音楽が流れている中で、休息したり、手足を動かしたり、遊んだりする。	
7. 音楽に反応して、体の動きを止めたり、動かしたりする。	
8. 教師の手をかりて、歌に合わせて、手足や体の部位を打ちならしたり、動かしたりする。	
9. 音楽に合わせて、手をたたいたり、歩いたり、走ったり、止まったりする。	
10. 教師と一緒に簡単な手遊び歌、指遊び歌、ものまね遊びなどをする。	
11. 歌遊びの中で遊びを交代したり、順番を待ったりする。	

表21：「特別支援学校指導内容例（段階2）」と「小学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	小学校学習指導要領
11. 「かごめかごめ」「花いちもんめ」「ずいずいずっころばし」のようなリズムカルで簡単なわらべうたや集団遊びをする。	ア我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲（低学年2 内容B鑑賞 (2)）
5. 好きな歌や曲を聴きながら、体を動かす。	(1)各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
7. 音楽に合わせて、模倣しながら身体各部分をたたいたりして動かす。	
8. 打楽器を打ったり、鳴らしたりしながら、歩いたり、走ったりの身体表現をする。	
9. 歌や曲に合わせて、簡単なハンドプレイや動作模倣をする。	
10. 音楽の大きな流れを感じ取り、自由に身体表現をする。	
11. 「かごめかごめ」「花いちもんめ」「ずいずいずっころばし」のようなリズムカルで簡単なわらべうたや集団遊びをする。	

表22：「特別支援学校指導内容例（段階3）」と「小学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	小学校学習指導要領
3. <u>描写音楽、行進曲、舞曲、序曲、民俗音楽、現代音楽、環境音楽など</u> いろいろなジャンルの音楽を聴く。	ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、 <u>行進曲や踊りの音楽</u> など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲（低学年2内容B鑑賞（2）） ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、 <u>諸外国に伝わる民謡など生活とのかかわりを感じ取りやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽</u> など、いろいろな種類の楽曲（中学年2内容B鑑賞（2）） ²²⁾
4. <u>身近な楽器の音色</u> に関心をもって聴いたり、音当て遊びをしたりする。	ウ <u>楽器の音色</u> や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲（低学年2内容B鑑賞（2）） （ア）音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素（低学年「共通事項（1）ア」） ²³⁾
9. <u>簡単なフォークダンスや踊り</u> をする。	ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、 <u>行進曲や踊りの音楽</u> など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲（低学年2内容B鑑賞（2）） ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、 <u>諸外国に伝わる民謡など生活とのかかわりを感じ取りやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽</u> など、いろいろな種類の楽曲（中学年2内容B鑑賞（2）） ²²⁾
10. <u>ペープサート、パネルシアターや簡単な音楽劇</u> などをして楽しむ。	
6. <u>歌や曲に合わせて花、ちよう、魚、うさぎ、象、ジェット機、消防車などの模倣表現</u> をする。	(1)各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
7. <u>歌を歌いながら、簡単なハンドプレイや身体表現</u> をする。	
8. <u>楽器や道具（手具）などを使って、音楽に合わせて身体表現</u> をする。	
9. <u>簡単なフォークダンスや踊り</u> をする。	
10. <u>ペープサート、パネルシアターや簡単な音楽劇</u> などをして楽しむ。	

表23：「特別支援学校指導内容例（段階4）」と「小学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	小学校学習指導要領
2. <u>いろいろな楽器の音色</u> に関心をもって聴く。	ウ <u>楽器の音色</u> や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲（低学年2内容B鑑賞（2）） イ <u>音楽を形づくっている要素のかかわり合い</u> を感じ取って聴くこと。（低学年2内容B鑑賞（1）） ²⁴⁾ イ <u>音楽を形づくっている要素の働き</u> を感じ取りやすく、親しみやすい楽曲（低学年2内容B鑑賞（2）） ²⁴⁾ （ア）音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素（低学年「共通事項（1）ア」） ²³⁾
8. <u>曲想にふさわしい自由な身体表現</u> をする。	ア <u>曲想とその変化</u> を感じ取って聴くこと。（中学年2内容B鑑賞（1）） ²⁵⁾
7. <u>音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現</u> したりする。	(1)各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
8. <u>曲想にふさわしい自由な身体表現</u> をする。	
9. <u>いろいろな歌のゲーム</u> をする。	
10. <u>民族音楽の特徴を味わいながら、フォークダンス、民謡</u> などを踊る。	

表24：「特別支援学校指導内容例（段階5）」と「小学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	小学校学習指導要領
2. いろいろな音楽の音色や人の声の特徴を感じ取って聴く。	ウ 楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲（低学年 2 内容B鑑賞（2））
3. いろいろな音楽を聴いて、リズム、旋律、速さ等の特徴に気を付けて、味わい楽しむ。	イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。（低学年 2 内容B鑑賞（1）） ²⁴⁾ イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲（低学年 2 内容B鑑賞（2）） ²⁴⁾ (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素（低学年〔共通事項〕（1）ア） ²⁵⁾
5. 音曲を特徴付けている音階、リズム、ハーモニーに気を付けて聴く。	イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。（低学年 2 内容B鑑賞（1）） ²⁴⁾ イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲（低学年 2 内容B鑑賞（2）） ²⁴⁾ (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素（中学年〔共通事項〕（1）ア） (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素（高学年〔共通事項〕（1）ア）
7. 曲の拍子やリズムの違いを聴き分けたり、聴き比べたりして身体表現をする。	イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。（低学年 2 内容B鑑賞（1）） ²⁴⁾ イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲（低学年 2 内容B鑑賞（2）） ²⁴⁾ (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素（低学年〔共通事項〕（1）ア） ²⁷⁾
9. 音楽を聴いて、その曲の曲想を感じ取り、独創的に身体表現をする。	ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。（中学年 2 内容 B鑑賞（1）） ²⁵⁾
7. 曲の拍子やリズムの違いを聴き分けたり、聴き比べたりして身体表現をする。	(1)各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
8. 歌いながら、リズムカルに身体表現をする。	
9. 音楽を聴いて、その曲の曲想を感じ取り、独創的に身体表現をする。	

表25：「特別支援学校指導内容例（段階6）」と「小学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	小学校学習指導要領
7. 世界各地のダンスや民謡をみんなで踊る。	(1)各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
8. 音楽を聴いて自分なりのイメージを膨らませ、創造的な身体表現をする。	

「特別支援学校指導内容例」の「段階1」と「段階2」には、「小学校学習指導要領」低学年に対応する内容が含まれていた。また、「特別支援学校指導内容例」の「段階3」から「段階5」には、「小学校学習指導要領」低学年、中学年及び高学年に対応する内容が含まれていた。さらに、身体表現に関しては、「小学校学習指導要領」指導計画の作成と内容の取扱いに記されている内容が常に対応している。そして学びの流れについては、以下のような傾向が考えられる。身体反応の快さを感じ取りやすい歌、日常生活に関連する歌に親しむ→行進曲や踊りの音楽など、身体反応の快さを感じ取りやすい歌、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽などに親しむ→様々な音色に関心を持ち、曲想にふさわしい身体表現を行う→人の声の特徴を感じ取る、リズム、旋律、速さ、音階、ハーモニー、拍子などの音楽の諸要素に関連した特徴に着目し、聴き分けたり、聴き比べたりする。また、曲想を感じ取って、身体表現する。このようなことを通して、楽曲を味わうこと、楽しむことにつながっていく。以上のように、身体表現を交えた鑑賞活動が重視され、段階的に示されている。

5)「中学校学習指導要領」との対応

「特別支援学校指導内容例」と「中学校学習指導要領」の対応に関する分析結果を、表26に示した。上段に「鑑賞」、下段に「身体表現」領域の内容を示している。分析結果の詳細は表27に示している。右下に点を付した数字は、「特別支援学校指導内容例」の項目番号を示している。網掛が「鑑賞」の項目である。下線の表記、網掛は表15から18と同様である。

表26：「特別支援学校指導内容例」（段階4）と「中学校学習指導要領」との対応

	段階4
鑑賞	6. 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (7) イ
身体表現	

表27：「特別支援学校指導内容例（段階4）」と「中学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	中学校学習指導要領
6. 自然音（風の音、波の音など）、生活音（チャイム、クラクション、鐘の音など）に興味をもって聴く。	イ 適宜、自然音や環境音などについても取扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること。

「特別支援学校指導内容例」の「段階4」には、「中学校学習指導要領」指導計画の作成と内容の取扱い2（7）イに対応する内容が含まれていた。このことから、生徒らの生活年齢にも配慮されていることが考えられる。自然音、生活音に興味をもって聴くことは、日常生活における音や音楽の役割をより深く考えていく活動等につながっていくと考えられる。

6) 「特別支援学校指導内容例」と「高等学校学習指導要領」との対応

「特別支援学校指導内容例」と「高等学校学習指導要領」の対応に関する分析結果を、表28に示した。上段に「鑑賞」、下段に「身体表現」領域の内容を示している。分析結果の詳細は表29に示している。右下に点を付した数字は、「特別支援学校指導内容例」の項目番号を示している。網掛が「鑑賞」の項目である。下線の表記、網掛は表15から18と同様である。

表28：「特別支援学校指導内容例」（段階6）と「高等学校学習指導要領」との対応

	段階6
鑑賞	2. 高等学校学習指導要領 音楽Ⅰ・Ⅱ 2内容 B鑑賞 ウ
身体表現	

表29：「特別支援学校指導内容例（段階6）」と「高等学校学習指導要領」との対応

特別支援学校指導内容例	高等学校学習指導要領
2. 歌手や作曲家、演奏家などに興味をもち、幅広い分野の音楽を聴いて、それぞれの特徴がわかる。	ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。 ²⁸⁾

「特別支援学校指導内容例」の「段階6」には、高等学校学習指導要領の音楽Ⅰ及び音楽Ⅱの内容 鑑賞ウに対応する内容が含まれていた。このことも、生徒らの生活年齢にも配慮したものと考えられる。歌手や作曲家、演奏家などに興味をもち、幅広い音楽を聴いて、それぞれの特徴が分かることは、コンサートやミュージカル、オペラなどに興味、関心をもち、演奏会場へ足を運ぶというような日常生活における音楽との関わりにもつながっていく内容と考えられる。

4. 特別支援学校（知的障害教育）と小中学校等の音楽科教育課程の関係性

1) 発達に関する指標・就学前の保育や教育に関する指標との対応

分析の結果、特別支援学校（知的障害教育）音楽科の高等部1段階（段階5）までの鑑賞指導は、幼稚園・保育所の「表現」などの内容を含んでいることが明らかになった。

発達段階に焦点を当てた器楽指導の分析（藤原・福島，2014）と比較すると、鑑賞指導の方がさらに1段階上まで幼稚園・保育所の「表現」などの内容を含んでおり、特別支援学校（知的障害教育）音楽科では、発達段階を踏まえてスモールステップで鑑賞指導が設定されていると考えられる。

2) 初等教育段階の指標との対応

分析の結果、教材選択の観点および身体表現の導入については、特別支援学校（知的障害教育）の高等部2段階（段階6）までの鑑賞指導が小学校「音楽科」の内容を含んでいることが明らかになった。また、音楽の諸要素の知覚や曲想の感受については、特別支援学校（知的障害教育）の小学部（段階3）以降の鑑賞指導が、小学校「音楽科」の内容を含んでいることが明らかになった。

身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に

関連した音楽から始まり、様々な音楽に触れ、楽器の音や人の声、音楽の諸要素に注目する流れが示されていることから、特別支援学校（知的障害教育）音楽科では、発達段階に即して段階的に鑑賞指導が設定されていると考えられる。

3) 中等教育段階の指標との対応

分析の結果、特別支援学校（知的障害教育）中学部（段階4）の鑑賞指導が中学校「音楽科」の内容（自然音や生活音への注目）を含んでおり、特別支援学校（知的障害教育）高等部2段階（段階6）の鑑賞指導が高等学校「芸術科」の内容（作曲家や演奏者への注目）を含んでいることが明らかになった。

このことから、特別支援学校（知的障害教育）音楽科では、無理のない範囲で生活年齢への対応に配慮した鑑賞指導が設定されていると考えられる。

4) 指標との対応がみられない項目

「特別支援学校指導内容例」には、「1. 自分でCD、MD、テープレコーダー、DVD等をかけて楽しむ。」（段階3）、「1. 自分の好きな曲を選んで、CD、MD、テープレコーダー、テレビ、DVD等を聴く。」（段階4）、「5. 生活の中で良い音楽を聴いて楽しむ習慣をもつようにする。」（段階4）、「6. 良い音楽映画を見たり、音楽会などで鑑賞したりする。」（段階5）など、本稿で使用した指標における記述とは直接的な対応がみられない項目もあった。

これらの項目は、鑑賞の方法や場を具体化したものであり、知的障害教育独自の目的や方法が反映されたものであると考えられる²⁹⁾。

5) 全体をとおして

全体の分析から、特別支援学校（知的障害教育）の鑑賞指導について、小学部では「身体表現」領域を中心とし、高等部にかけて徐々に「鑑賞」領域の比重を大きくしながら進められていく過程がみられた。これは、幼稚園、保育所等で「表現」に関連した総合的な活動の中で聴く力が生まれ、小学校の「音楽科」において体を動かす活動を取り入れながら鑑賞の能力を育てていく³⁰⁾過程と符号する。

このことから、特別支援学校（知的障害教育）音楽科では、「鑑賞」領域と独自に設定された「身体表現」領域の指導をとおして、発達段階に即して鑑賞の能力を育てるように鑑賞指導が設定されていると考えられる。

また、「身体表現」に重点を置いた鑑賞指導は、抽象的な物事の理解や言語表現に困難を抱えやすい知的障害児の鑑賞活動を支えるものであるとも考えられる。

おわりに

本稿では、鑑賞指導に焦点を当てて、特別支援学校（知的障害教育）と小中学校等の音楽科教育課程の関係性について考察した。「鑑賞」領域に加え、特別支援学校（知的障害教育）独自の「身体表現」領域も分析の対象としたが、「身体表現」領域については鑑賞指導以外の側面からも分析を深める必要があると考えている。

また、「特別支援学校指導内容例」や小・中学校学習指導要領等における記述をもとに文言のみの対応を検討しているため、内容の解釈には限界があると考えている。今後は、これまでの分析をもとに、発達一般や音楽的発達に関する見解を広範囲に検討した上で指導内容指標を開発し、実践的検証を行いながら、障害のある子どもと障害のない子どもの音楽科学習の共有化を促す具体的な方策について検討していく予定である。

付記

本研究は、科学研究費補助金（課題番号26381220・24330247）の助成を受けて行ったものである。

注および引用

- 1) 文部科学省（2012）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321669.htm（2014年12月15日閲覧）
- 2) 文部科学省（2009）『特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』教育出版。
- 3) 遠藤恵美子・佐藤慎二（2012）「小学校における交流及び共同学習の現状と課題—A市の通常学級担任と特別支援学級担任への質問紙調査を通して—」『植草学園短期大学研究紀要』13, pp.59-64. ほか。
- 4) 特別支援教育総合研究所が2005年から2007年に行った調査では、音楽科における「交流及び共同学習」の実施率は80.7%であった。
- 5) 文部科学省（2009）前掲書 pp.252-311.ほか。特別支援学校（知的障害教育）音楽科の目標・内容については、注7にあげる文献に詳述している。
- 6) 特別支援教育総合研究所（2008）『プロジェクト研究成果報告書「交流及び共同学習」の推進に関する実際の研

- 究』p.40.
- 7) 藤原志帆・福島さやか (2014) 「特別支援学校と小中学校等の音楽科教育課程の関係性—特別支援学校（知的障害教育）音楽科器楽領域における指導内容の分析をとおして—」『福岡女学院大学紀要 人間関係学部』15, pp.1-9.
- 8) 文部科学省 (2011) 『おんがく☆おんがく☆☆おんがく☆☆教科書解説』東京書籍, p.27.
- 9) 文部科学省 (2011) 前掲書, p.27.
- 10) 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育課が作成したものであるが、全国的に多くの学校が参考にしている。全国特別支援学校知的障害教育研究会編著『知的障害教育における学習評価の方法と実際』ジアース教育新社などに掲載されている。構成については、藤原・福島 (2014) 前掲書に詳述している。
- 11) 宇佐川浩 (2011) 『感覚と運動の高次化からみた子ども理解』学苑社, pp.88-89.
- 12) 宇佐川浩 (2011) 『感覚と運動の高次化による発達臨床の実際』学苑社, p.136.
- 13) 奥座亜希子ほか (2006) 「音楽を活用した子どもの発達と評価に関する方法論的研究：アセスメントツールと実践ツールの開発」『琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要』7, pp.59-84.
- 14) 大城典子ほか (2012) 「子どもの音楽における発達と評価に関する研究—教育実践現場における活用をめざして—」『琉球大学教育学部発達支援センター紀要』3, pp.45-54.
- 15) 厚生労働省 (2004) 『保育所保育指針』フレーベル館
- 16) 民秋言 (2012) 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』萌文書林では、今回の改訂で保育指針は大きく変化し、制度的、形式的に変更部分は多くあったが、基本的にとくに発達論、保育内容論については変化していないとの見解が示されている。
- 17) 文部科学省 (2013) 『小学校学習指導要領平成20年3月告示』東京書籍
- 18) 文部科学省 (2013) 『中学校学習指導要領平成20年3月告示』東山書房
- 19) 文部科学省 (2014) 『高等学校学習指導要領平成21年3月告示』東山書房
- 20) 4、5、6歳児の保育の内容 4 内容においても、様々な音に気付くことについて記されているが、段階的な指導を示すため、表16では最も早く現れた箇所を記している。
- 21) 5、6歳児の保育の内容 4 内容においても、みんなと一緒に聴いたり、や音楽に親しみ、という言葉が記されているが、段階的な指導を示すため、表17では最も早く現れた箇所を記している。
- 22) 高学年においても、諸外国の音楽、人々に長く親しまれている音楽についての記述が見られるが、注20、21と同様に、段階的な指導を示すため、表22では最も早く現れた箇所を記している。
- 23) 中、高学年の共通事項においても、音色について記されているが、段階的な指導を示すため、表23では最も早く現れた箇所を記している。
- 24) 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じとることや、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすい楽曲を鑑賞教材として扱うことに関しては、中、高学年でも記されているが、段階的な指導を示すため、表23、表24では最も早く現れた箇所を記している。
- 25) 高学年においても、曲想の変化などを感じ取ることが記されているが、段階的な指導を示すため、表24では最も早く現れた箇所を記している。
- 26) 中、高学年の共通事項においてもリズム、速度、旋律について記されているが、段階的な指導を示すため、表24では最も早く現れた箇所を記している。
- 27) 中、高学年の共通事項においてもリズム、拍の流れについて記されているが、段階的な指導を示すため、表24では最も早く現れた箇所を記している。
- 28) 音楽Ⅱにおいても同様の内容が記されているが、段階的な指導を示すため、表29では最も早く現れた箇所を記している。
- 29) 前述したように特別支援学校（知的障害教育）の音楽科は独自の目標を有しており、なかでも、中学部・高等部の目標は、「生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。」という文言で結ばれている。また、知的障害のある児童・生徒の教科指導については、現行の特別支援学習指導要領解説において、知的障害児の一般的な学習上の特性から、実際の・具体的な内容の指導が効果的であると示されている。
- 30) 小学校の「音楽科」では、学習指導要領において、「表現」・「鑑賞」両領域の指導に当たって体を動かす活動を取り入れることが奨励されている。さらに「鑑賞」領域の指導については、学習指導要領解説において、全「指導に当たっては、体を動かす活動を通して音楽の移りゆく変化を感じ取ったり、曲想が異なる楽曲、楽曲の中の対照的な部分を聴き比べたりするなど、曲想とその変化などの特徴を感じ取るようにすることが大切である。」(高学年) などのように、全学年にわたって体を動かす活動を取り入れることの重要性が強調されている。